

将来負担を及ぼさないまちづくりを進めることが重要ではないか



(動画時間) 47分



さいとう よしのぶ 齊藤 好信 議員

町長：将来人口推計を見据えて次世代のことを考えた持続可能なまちを目指す

質問

将来に向けて様々な施策を取り組むにあたり、人口の推移がまちづくりの大きなバロメータであり、重要な要素です。様々な課題に直面している中で、今後どのような構想を持ち、持続可能なまちづくりに取り組んでいくのかを伺います。

町長

人口減少、少子高齢化に起因する課題は山積しています。将来人口推計などを見据えながら未来志向で、次世代のことを考え、持続可能なまちを目指し取り組んでいきます。人口が減ると様々な影響があるため、それに見合った公共施設等の再編なども進めていかなければなりません。

再質問

次世代の方々に将来負担を及ぼさないことが非常に大事だと思いますが考えを伺います。

町長 将来世代に過度な負担を残す、あるいは、解決しなければならぬ課題を全て先送りするということは、私はやってはいけないことだと思っています。



(動画時間) 31分

役場に外国人材、多文化共生を担当する職員や部署を設置してはどうか



なかた ごうのすけ 中田 豪之助 議員

町長：民間主体の協議会組織を作っていたとき、町ができることを支援していく

質問

人口減少に伴う生産年齢人口の減少は、下川町に限らず大変重要な課題です。解決策の一つが外国人材です。その方々は単なる労働力ではなく、これからの下川町を支えていただく、大切なパートナーになりうると考えます。ただ、考え方や習慣が違うため、日本の当たり前を押しつけてはいけません。外国人材を雇用する個々の事業者だけで対応するには負担が大きいため、役場に外国人材、多文化共生を専門に担当する職員、あるいは部署を設置してきめ細かい対応を行うべきだと考えます。

町長

しもかわ財団と連携し、多文化共生も含め調査をし、今後の対応を考えています。役場に専門部署が必要となれば設置を検討しますが、まずは、受け入れを考えている民間の事業者主体で協議会組織を設置していただき、受け入れに対応するのが今の段階で良い方法だと思います。共通の課題を認識し、それに対して町ができることを支援していくことが良いと考えます。